

## 新刊紹介

# 薬が効かない！

三瀬勝利（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）／

発行：(株)文藝春秋 / 〒102-8008 東京都千代田区紀尾井町3-23 / 03-3265-1211 /

A 6 版 / 198頁 / 価格 680円（税別） / 2005年 8 月20日発行

本書は序章から「風邪をこじらせただけで死ぬ時代」というショッキングな事例で始まっている。頑強で自分の体に自信のある壮年男性が癌ではなく、「たかが風邪ぐらい」の油断から肺炎をこじらせて死を遂げた。抗生物質が効かなかったのだが、わが国でも1年間に十万人が感染症で亡くなっているという。抗生物質が絶大な効果を発揮したのはもはや過去の話で、菌が次々と耐性を獲得し、その結果で肺炎で死ぬ人が増加しており、感染症に対する備えは戦前レベルに逆戻りしつつあるという。こうした耐性菌がのさばる恐るべき現状を明らかにして菌が耐性を獲得する仕組みを解説し、抗生物質、消毒剤や抗菌グッズの乱用の中止を世間に喚起することが執筆の目的であり、その思いが以下の各論に述べられている。

序 章 今や回りは耐性菌だらけ

第 1 章 抗生物質はどう神通力を失ったか

- 1 抗生物質開発小史
- 2 細菌の正体
- 3 感染症は変貌する

第 2 章 抗生物質はいかにして細菌を抑えるか

- 1 微生物の基礎知識
- 2 抗生物質はどのように作用するのか

第 3 章 抗生物質はなぜ効かなくなったか

- 1 耐性菌に化ける三つの方法
- 2 抗生物質を無力化するメカニズム
- 3 抗菌グッズは国を滅ぼす

第 4 章 では、これでいいのか

- 1 求められる意識の転換
- 2 国がとるべき対策

### 3 個人でできる効果的な対策

次にその内容を見ていくと、序章ではわれわれは肺炎を起こす菌に囲まれているなど増大する感染症の危機のなか、抗菌剤の垂れ流しや感染症への備えの脆弱さに慄然とした思いに駆られて緊急に具体的な対策の必要性を訴えている。第1章では抗生物質の発見と開発の歴史、その経緯と現状を感染症別に紹介し、第2章ではいろいろな抗生物質を紹介し、どのように細菌を抑えるかを、また、その標的となる細菌の構造について述べている。第3章は第2章と逆に細菌の側から抗生物質への対抗手段の解説とあまりにも野放しの抗菌グッズの乱用に対して警告である。さらに第4章では復活しつつある細菌感染症で命をとられないために、効果的な防御対策を国や団体と個人に分けて言及している。具体的には抗生物質は大量に使わなければ効果は復活する、薬に畏敬の念を持とうなどの意識転換の必要性、感染症研究の充実やその予防対策など国が取るべき対策、個人の対策として、安易に薬に頼らない、風邪に抗生物質は効かない、インフルエンザは風邪ではない、病原微生物には出来るだけ近づかない、心身ともに健全な生活を送ること等々から台所は便所より不潔であるとか、抗菌グッズに頼らず日頃から清潔の維持などにも言及している。あとがきで「一般の人たちは感染症と抗生物質に対して、大きな誤解をされているようだ。即ち、感染症は過去のトロイ病気である、そのために、抗生物質を飲めば治る、とう誤解である。しかし、抗生物質は急速に威力を失っている。抗生物質や消毒剤の乱用によって、細菌が再武装してきており、薬の効かないタイプが我々の周辺を取り囲んでいる。今や抗生物質が一発で効くなどということは、よほどラッキーな場合に限られている。我々が感染症にやられている危険度は急速に高まっている」と述べている。また、抗生物質が効かない時代に突入したという認識は、保健衛生に携わる関係者の共通した認識になりつつあると述べ、個人の努力だけではなく、組織的に抗生物質の使用を減らすと取り組みが必要であることを強調している。

本書は、手軽に読めるが、内容は深刻な内容を含んでおり、現状と対策を理解する上の啓蒙書ともなるため、抗生物質や消毒剤などについての知識の整理し、再認識するための一助になると思う。

(学会事務局)